

アジア太平洋の人をつなぎ学びを育てる

# ACCU news

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

特集

## ACCUとユネスコ～理念から実践へ、今年度の展開

国際教育交流事業

エキスパートミーティング報告会・ワークショップ……6

韓国教職員招へいプログラム……7

金沢大学附属高等学校研修会……8

高校模擬国連国際大会……8

SMILE Asiaプロジェクト……9

ACCU奈良事務所……9

全国各地の高校模擬国連……10

未来へつなげ！ ユネスコスクール……10

活動メモ……11

No. **408**  
2019年6月号



ACCU

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター 発行

# ACCUと ユネスコ

## ～理念から実践へ、 今年度の展開

国連の「良心」と言われるユネスコ、その中核的事業である教育分野においてユネスコが提示した革新的なアイデアや方策を、アジア太平洋地域で実践に落とし込み「普及・発展」につなげてきたのがACCUです。

今年度ACCUは、ユネスコの教育分野におけるアジア・太平洋の地域事務所であるユネスコ・バンコク事務所をパートナーとして、人々の「日常の場」である「学校や地域社会におけるESDの実践」を推進するという重要な役割を担っていきます。国内の成果に留まらず、グローバル社会での検証へとつながる意義あるプロジェクトがスタートします。

この特集では、かつてACCUファミリーの一員であったユネスコ・バンコク事務所の青柳所長よりACCUへのエールとなる寄稿文を頂き、また、発進したばかりの新しい「プロジェクト」をご紹介します。

\*1 Asia-Pacific Programme of Education for All  
\*2 アジア・太平洋地域読書新興・図書開発協同プログラム(Asia-Pacific Co-operative Programme in Reading Promotion and Book Development)  
\*3 PALM:Package for developing Adult Learning Materials  
\*4 CLC:Community Learning Centre  
\*5 Education for Sustainable Development  
\*6 Sustainable Development Goals

## ACCUとユネスコ～これまでの歩み

- 1945 ▶ ユネスコ憲章採択
- 1951 ▶ 日本のユネスコ加盟
- 1971 ▶ ACCU設立
- 1981 ▶ 識字協力事業を開始
- 1987 ▶ ユネスコ・バンコク事務所～アジア太平洋EFA事業APPEALを開始。ACCUもそれに協力&連携して教材制作、人材養成などの事業を実施。
- 1990 ▶ 国際識字年記念児童書『なにをしているかわかる? (Guess What I'm Doing!)』の完成。42か国、65言語の各国版が出版された。
- 1992 ▶ ユネスコAPPREB事業への協力開始
- 1997 ▶ ユネスコ・バンコク事務所と共同で「アジア太平洋識字データベース」(Asia-Pacific Literacy Data Base)を開発
- 2000 ▶ 国連ミレニアム開発目標(MDGs)開始  
▶ ACCU・ユネスコ青年交流信託基金事業実施
- 2001 ▶ ユネスコ・バンコク事務所と共同で「学校外教育教材開発パッケージ」(PALM)<sup>\*3</sup>を制作
- 2003 ▶ ユネスコ・バンコク事務所と共催の「アジア太平洋地域NFE事業企画会議」にて日本の公民館活動について学習したことが契機となり、アジアのコミュニティ学習センター(CLC)<sup>\*4</sup>と日本の公民館との交流が開始
- 2005 ▶ 国連持続可能な開発のための教育(ESD)<sup>\*5</sup>開始
- 2006 ▶ ユネスコ・バンコク事務所と連携  
▶ ACCU-UNESCOアジア太平洋地域ESD事業～COE形成プログラムおよびイノベーション創成プログラム開始
- 2008 ▶ ユネスコスクール支援事業開始
- 2010 ▶ ユネスコESD国際協働学習(RICEプロジェクト)開始
- 2013 ▶ ESD COE専門家会議 ユネスコとの共催
- 2014 ▶ ユネスコ・バンコク HAPPY SCHOOLS!プロジェクト開始  
▶ ユネスコスクール世界大会(岡山) / 国連ESDの10年世界会議(名古屋) / ESD-CLC国際会議
- 2015 ▶ 国連持続可能な開発目標(SDGs)<sup>\*6</sup>開始  
▶ ユネスコ主導「ESDに関するグローバルアクションプログラム(GAP)」のキーパートナーとなる
- 2018 ▶ SDGs達成に向けたアジア地域ESDワークショップ開催

- ▶ 組織発足など
- ▶ ユネスコとACCUの協同
  - ・一部の紹介です
  - ・終了したのも含まれています
- ▶ 国連サミットで採択された目標

## ACCUの魅力について

ユネスコ・アジア太平洋地域事務所長  
(ユネスコ・バンコク事務所)  
青柳 茂



仕事に必要なことはすべてACCUで教わりました。事務処理、人との関わり方、チーム作り、事業の立案、実施、評価、そして組織づくりの考え方など。30年以上前、私がACCUで働き始めた頃には、タバコの煙たよう事務室で、ボールペンで原議書を書き、コヨリで留め、手動のタイプライターで英文の手紙を作っていました。重要な書類は一箇所でも間違えるとはじめから作り直すことになり、長時間格闘することも度々ありました。隔世の感極まります。

ユネスコに移ったのは、2002年でした。パリ本部教育局で識字ノンフォーマル課長として初出勤の日、秘書が出迎えてくれた以外には、オフィスに申し送りの書類や過去の事業記録ファイルが全く無く、途方に暮れたのを覚えています。いきなりジャンプインして手探りで仕事を理解していく難しさは、ACCUの比ではありませんでした。それからの17年間、パリにいた間は、ニューヨークの国連総会で「国連識字の10年」の立ち上げに関わり、ユネスコの識字教育の旗艦プログラムであるLIFE (Literacy for Empowerment) で世界で最も識字問題の深刻な35か国をサポートし、アフガニスタンに移ってからは、日本外務省の支援を受け数十万人の主に女性を対象とした識字教育の基礎を作り、その後のニューデリーでは、政治的な難しさのある中、南アジア地域協力連合(SAARC)の教育大臣会議で、SDG4の実施の枠組みの合意に尽力しました。このようなやりがいのある仕事に携われてきたことは大変幸せなことですし、それを可能にしてくれたACCUでの日々感謝の念が耐えません。

現在の職に就いてからは、アジア太平洋地域の教育課題を包括的に扱い、地域のユネスコ加盟46か国との協

力関係をもとに、地域レベル、国レベルで持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けて事業を進めています。人口増加、高齢化社会、気候変動、移民と難民、都市化、災害、富や知識の分配の不平等、非識字、紛争と緊張等、様々な問題を地域は抱えています。相互に関わり、国境を超えて影響し合うこのような問題の根本的、長期的な解決に向けては、ひとびとの日常の暮らしの中での意識や行動を変えていくことが何よりも大切で、そのためには教育の果たす役割は今後どんどん増していくと考えています。

ACCUがこれまで培ってきた、識字、ESD、人材交流等の事業は、ひとびとの意識変革を促すきっかけとなる優れた教材や出版物を生み出してきました。その過程で自然に形成された人的ネットワークも大変貴重なものです。日本国内でのユネスコスクールでのESDの取り上げ方や、地域に根ざした公民館を中心とした生涯教育のモデルはアジア太平洋地域の教育の発展に大きな貢献ができるコンテンツです。

アジアの国々やユネスコにとって、ACCUの魅力は、国内外に広がる優れた専門家のネットワークとそこから協働でつくられる良質のリソースです。私のいた頃とは状況は異なっていますが、質の高いものづくり、ひとづくり、ネットワークづくりを頑張っ続けていくことだけが、ACCUの将来を作っていくことだと思います。

感謝の意を込めて。

# いよいよ発進!～「日常の場」で展開する 2つの新プロジェクトのご紹介

## 学校でハッピースクールプロジェクト

教育協力部 大類 由貴

ハッピースクールプロジェクトは、学校での経験が幸福(well-being)の実現にあたり重要な役割を担っていることから、学校内での幸福感を高めることを目的に、2014年ユネスコ・バンコク事務所により発足しました。この事業は、ユネスコが提唱する学習の4つの柱のうち、「ともに生きることを学ぶ」と「人間として生きることを学ぶ」の2つを重視しています。第1期事業では、アジア太平洋における開発政策及び教育政策において幸福がどのように反映されているか、文献

および質問票による調査をし、ハッピースクールの枠組み<sup>\*2</sup>をつくりました。

第2期事業では、ハッピースクールの枠組みの運用を目指しており、日本、ラオス、タイの3つの参加国で試験的事業を実施します。ACCUは日本での試験的事業の国内調整を担当することとなり、この事業に参加する学校の校長と担当教師を対象としたワークショップの実施と事業参加校の試験的事業の支援を行います。1月21～22日にはACCU職員がユネスコ・バンコク事務所での事業の準備



会合に参加しました。準備会合で得た知識を踏まえ、4月20～21日には、福山で事業参加校向けにワークショップを実施し、各校がそれぞれ試験的事業の実施に向けて計画を立てました。まだ動き始めたばかりの事業ではありますが、今後事業参加校が、どのような活動を展開していくのか、楽しみにしててください。

### ハッピースクールの枠組み<sup>\*2</sup>



©ユネスコ・バンコク

\*1 ①知ることを学ぶ、②為すことを学ぶ、③共に生きることを学ぶ、④人間として生きることを学ぶ \*2 幸福を構成する要素として、①人、②過程、③場所の3つのカテゴリーに分類し、22の基準を設けています。

# 公民館で地域に根ざした 持続可能な開発のための教育(ESD)推進プロジェクト

教育協力部 若山 洋子

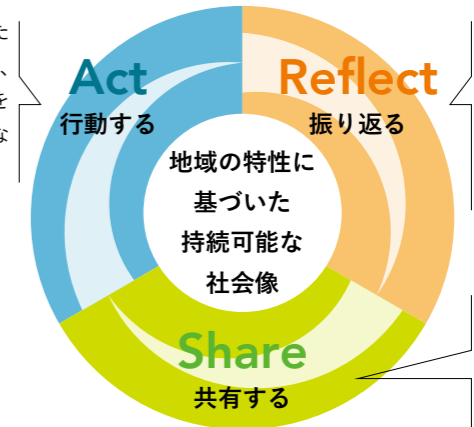
アジア太平洋地域のESD推進において主導的役割を果たすユネスコ・バンコク事務所では、地域に根ざした学びが持続可能な開発目標(SDGs)の達成に果たす可能性に着目し、地域学習機関によるESD推進のためのハンドブックの作成に取り組んできました。またその一環として、2018年末には、日本を含むアジア5か国におけるハンドブックを活用した実践プロジェクトの実施に乗り出しました。ACCUはこの取り組みにおけるユネスコのパートナーとして、東海大学との協力により、公民館を通じたESD推進事業を本年度より本格始動しています。

本プロジェクトの日本における舞台は、神奈川県平塚市です。平塚市には、全体の統括を担う中央公民館と25の地区公民館があり、これまでに各地区的特性を活かし、充実した公民館事業を行ってきました。本プロジェクトでは、既存の公民館の運営機能を活用しながら、新たにESDの視点を加えることで、地域の持続可能性をより強く意識した地域教育活動の展開を狙います。

今年度はモンゴル、フィリピン、ラオスとの相互交流も予定されています。国境を越えた実践者間の交流と学び合いは、平塚市の地域教育にどのようなインパクトをもたらすでしょうか。

## 本プロジェクトでユネスコが提唱する 地域教育施設を通じたESD推進枠組

実際に地域に根ざしたESD活動をデザイン、計画、実施し、それらを評価するために有効な手法を学びます。



ESDを推進していくうえで重要なESDの主要概念について理解し、それらに照らし合わせてこれまでの活動を振り返ります。

前段の振り返りの内容に基づき、自身のESDに関する理解を周囲と共有するための技術やノウハウについて学びます。

©ACCU

ACCUは、日本国内の豊かな取り組みとアジア地域、世界とを繋ぐ架け橋として、今後も実践者に寄り添った地域ESD推進支援を目指していきます。

### 活動レポート

#### 社会教育の拠点施設として注目される公民館事業の研修会!

4月19日(金)、第1回研修会が開催されました。まずはESDの概念について学び、これまでの公民館事業についてワークショップ形式で振り返るなど、本プロジェクトの平塚市での展開について率直かつ活発な意見交換の場となりました。  
場所：平塚市中央公民館  
参加者：9名(平塚市職員7名(うち公民館主事4名)、東海大学1名、ACCU2名)

#### グローバルエデュケーションモニタリングレポート概要2019

#### 『移住、避難と教育～壁を作るのではなく、橋を架ける』

GEMRはSDG4(教育)の達成に向け、その進捗状況を取りまとめた年次評価レポートであり、ユネスコの協力のもと、独立した研究チームにより制作されています。ACCUは広島大学教育開発国際協力センター(CICE)と並んで、今年も日本語版概要の発行団体となっています。

2019年のテーマは「移住、避難と教育～壁を作るのではなく、橋を架ける」。このレポートでは様々なタイプの人口移動を対象にした統計や考察、それに伴う問題提

起がなされています。「人口移動が教育環境や質に与える影響」、「移動する人々と受け入れるコミュニティにおける教育の意義」を問いつけ、その現状をレポートでみていくことで、SDGsの実現に向けてなすべきこと、求めるべきことを知る一助となるでしょう。尚、レポートはACCUホームページから閲覧することができます。  
<http://www.accu.or.jp/jp/index.html>



\* GEMR: Global Education Monitoring Report (グローバルエデュケーションモニタリングレポート)

国際教育交流事業 エキスパートミーティング報告会・ワークショップ

# 5か国間交流による 経験の共有と、始まる変容

国際教育交流部部長 進藤 由美

ACCUの国際教育交流部では「先生が変わる、子どもたちが変わる、未来が変わる、学びの場」をテーマに、教職員をターゲットとした教職員国際交流事業を過去約20年にわたり実施しています。

対象国は歴史の長い順から、韓国、中国、タイ、そしてインドとなりますが、それぞれが日本との二国間交流であり、これまで5か国が一堂に会することはありませんでした。そこで、平成30年度を初回として、同事業のカウンターパートである各国の機関・団体の方々と国際理解・ESD・地球市民教育の専門家の方々と交えて国際専門家会議と事業報告会を同時開催しました。

当該カウンターパートとして各国

の関係者は本プログラムをどのように捉え、理解し、そして取り組んでもらえているのか、各国の状況を踏まえながらこれまでの経験を共有し、さらによりプログラムにしていこうためにはどのような課題があるかについて議論を深めました。また、専門家の立場から本プログラムの学際的な価値付け、意義、そしてアドバイスを頂きました。

本年度事業の報告会ではプログラムに参加された先生方に自身の変容のストーリーを共有して頂きました。先生方の変容は様々です。派遣プログラムに参加された経験から、自身をあらためて見つめなおすところから始まる変容、あるいは管理職の立場から学校の変容に取り組む校長先



韓国、中国、タイ、インド、日本の参加者

生、など大変貴重なストーリーを共有して頂きました。翻って、ACCUは事業実施機関としてどのように変容していかなければならないのか、そのヒントとパッションを頂く機会となりました。

**DATA**

開催日：2019年2月22日(金)～23日(土)  
開催場所：東京  
参加者：52名

## 新メンバーのフレッシュな感想！

国際教育交流部 天満 実嘉

今回ACCU職員として初めて国際専門家会議と事業報告会に携わる中で、教職員交流事業を一度も途切れることなく20年間継続できたことの素晴らしさを改めて感じました。

まさに20年前、私が小学生だったころ、年に1回外国籍の先生が自国の文化についての授業をしてくださいました。今回、報告のなかで見た写真に写った参加者の皆さまのキラキラした表情は、その時の自分や印象深い楽しい授業を思い起こさせてくれました。これまで交流事業に参加された約5千人の先生方、そして国内外の子どもたちにとっても、この先の人生に響く大きなインパクトある出来事だったと

確信しています。

グローバル化した社会では、誰もが当事者として自分の身の回りの事柄と世界がどのようにつながっているか(今日着ている服は誰がどのようにどこで作ったのか? 今日食べた野菜、肉、魚は? ...)、ひとりひとりの違い(多様性)を豊かさとして受け入れ、同じ地域でともに幸せに暮らすにはどうすればいいのかを考え、行動しなければなりません。

こうした世の中だからこそ、学校現場の先生が海外の教育現場と具体的なつながりをもって、広い視野で活動でき、その学びを教室で子どもたちに伝えることは、先生としての大きな役割

のひとつだと感じています。

参加者アンケートには「“イマココ”を見つめなおし大切にすることができ“私たち”であるために、行動を変え、更新し続けていきたいと思いました」という力強い先生の言葉がありました。このように学校現場で日々奮闘する先生方、その先にいる子供たちに届く活動をしていきたいと気持ちを新たにしました。

ACCUの教職員交流事業が、これまでもこれからも時代に合わせて変化しながら継続し、貢献していく使命を痛感した経験になりました。

韓国教職員招へいプログラム

# よきパートナーとして 学びあい、 ともに成長する

国際教育交流部 高松 彩乃

2019年1月22日から28日にかけて96名の韓国教職員を招へいし、関西の二府二県をフィールドに交流事業を実施しました。

本プログラムは19回目の実施となりますが、プログラムに参加された先生方には「日本と韓国の人々は、同じものを目指して互いに協力し合うことが大切だ、だからこそ学びたい」という姿勢が見られました。これはまさに、SDGs(持続可能な開発目標)の達成につながる視点であると感じています。

韓国の先生方は、一週間のプログラムを通して各グループの参加者の所属校種に合わせた学校現場、地域の特色、教職員や児童・生徒との交流を直接体験されました。それらの体験を経て、プログラム最終日に実施したアンケートの中で「今後の活動」を問う設問にも、印象的なコメ



校長先生のアイデアで、韓国の先生も配膳を体験！

ントが寄せられました。

「日本は韓国に一番近い国であり、お互いに非常に大きな影響を及ぼす国だ。相互の連帯や友好的な交流が必要だと思うので、日本のことをもっと学びたい。」

「地球市民として日本・韓国が互いに仲良く協力して生きていけるよう、児童・生徒の交流を続けていきたい」

また、参加者のほとんどがユネスコスクール加盟校に所属していることもあり、先生方が最も関心を持っているトピックは「日本のユネスコスクールで行われている活動」でした。訪問先の学校で行われている具体的な活動に関心を示すのみならず、「ユネスコを通じた文化の理解は世

界が共存するために必要だ」「ユネスコの精神をつなげていくためには、世界中のさまざまな学校との交流を通して共感を形成していくべきである」「どこに行っても子どもたちはかわいらしく、子どもたちの未来のために大人たちがどうしなければならないか常に考えさせられた」といった強い信念を感じさせる感想が並びました。今回のプログラムが、ともに未来をつくるパートナーシップを育む第一歩になれば嬉しく思います。

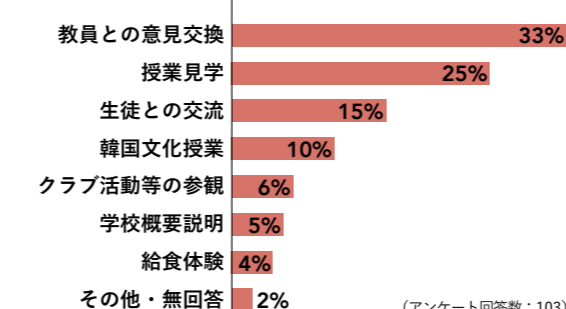
**DATA**

実施期間：2019年1月22日(火)～28日(月)  
参加人数：96名  
訪問地域：京都、奈良、大阪、兵庫

## 教員交流プログラムの“要”である学校訪問で韓国の先生が感じたこととは？

「学校訪問」の中で最も有意義な活動は何であったか

参加者の感想



(アンケート回答数：103)  
※複数項目への回答を含む

「どうやって教えるのか？」という教育方法の問題は、ひとつの解決策や正解があるわけではない。知識重視の詰め込み式教育が全く必要ではないということではなく、それはそれなりに時代状況に合わせて一定の役割を担ってきた。昨今台頭している児童・生徒中心の授業、学び中心の授業について両国がその必要性を主張してはいるが、実際に教室の中で行われる授業は韓国も日本も似ているようだ分かった。

教職員と保護者や地域の人々が参加した交流会で、学校と地域社会の連携活動について直接話を聞くことができました。

金沢大学附属高等学校研修会

## 高校生とSDGsに向き合う

教育協力部 篠田 真穂

2019年3月のSDGs認知度調査によると、国内におけるSDGsの認知度は約19%でした。SDGs開始後、国内の認知度は徐々に上がっていますが、決して高いとは言えません。そのような中で、学校現場では日々「持続可能な社会の担い手」を育む学習の探求が進められています。ACCUは2018年度から金沢大学附属高等学校の「地域課題研究」及び「グローバル課題研究」のコーディネーターとしての役割を担っています。2019年度のシンガポール・マレーシアへの海外現地学習に向けて、足元から世界へと視点を移しながら

SDGsを軸に「地域と世界を幸せにする学習が進められます。SDGsが国連で採択されて以来、「持続可能性」というどこか曖昧であった言葉が、明確で、分かりやすい“アイコン”となりました。しかし、いざ活用しようとする、どうしても高校生の日常(リアル)と17の目標との間に大きな距離感のようなものを感じてしまいます。「高校生には、リアリティとパッションをもって、持続可能性に向き合っていってほしい」。金沢大学附属高等学校の先生方にはそんな想いがあります。ACCUは2018年度、教員と生徒に

向けた2回ずつの研修会を実施しました。8月には海外現地学習の下見に同行し、先生方とともにSDGsのレンズを通してシンガポールとマレーシアを観察しました。持続可能性に向き合う自己と、そこから生まれるありのままのパワーが形となるように、2019年度も引き続き金沢大学附属高等学校のみなさんとともに学びを深めていきたいと思いを

DATA

開催日: 2019年3月13日(水)  
参加者: 約120名  
開催場所: 石川



シンガポールでの下見、マリナーベイサンズを背景に

\*「SDGs認知度調査 第4回報告 - 朝日新聞 2030 SDGs - 朝日新聞デジタル」

SMILE Asia プロジェクト

## 初めての現地訪問で見たもの

教育協力部 藤本 早恵子

母子保健をテーマに成人女性を主な対象とした識字教室を運営する「SMILE Asiaプロジェクト」は、当センターが長年貢献してきた識字教育分野の“ACCUらしい”プロジェクトです。縁あって私もこのプロジェクトを担当することになり、今回かねてから希望していた現地訪問が初めて実現しました。プロジェクト実施国のカンボジアで私が見たものは、村の識字教室に通う女性たちの真剣なまなざしや和気あいあいとした授業風景、彼女らが学ぶ傍らで遊ぶ子どもたちの明る

い笑顔、のどかな農村部のすぐそばまで押し寄せる都市の気配など…。でも一番印象深かったのは、現地パートナー団体CWDA\*のプロジェクトに対する熱い想いと真摯な姿勢です。村で見たCWDAと村民との厚い信頼関係は、足しげく村に通って学習者を鼓舞し、円滑な教室運営のために関係各所に奔走しているCWDA職員の地道な努力を物語るものでした。ご寄附で成り立つこのプロジェクトを運営する私たちの使命の1つは、現地の想いやニーズを支援者にわか



識字教室で学習者に話しかけるCWDA職員(右)

りやすく伝え、それに応える支援者の善意を余すことなく現地の人々に届けるメッセンジャーとしての役割を全うすることだと感じた数日間でした。

DATA

派遣期間: 2019年1月22日(火)~26日(土)  
派遣場所: カンボジア王国プノンベン、コンポンスプ州  
出張者数: 3名

\* The Cambodian Women's Development Association : カンボジア女性開発協会

高校模擬国連国際大会

## グローバル人材としての第一歩

国際教育交流部 岡野 晃一

高校模擬国連国際大会  
日本代表団



第12回全日本高校模擬国連大会で選抜された優秀6チーム・地方創生枠2チームの合計8チーム16名の高校生が、高校模擬国連国際大会参加のために2019年5月7日~13日の期間ニューヨークに派遣されました。派遣に先立ち、4月14日にはJICA地球ひろば国際会議場にて、国際大会での担当国であるデンマーク大使の立場になりきって、担当委員会の政策発表をプレゼンテーションおよび質疑応答すべてを英語で実施しました。

そして大会本番ではその成果を出し切り、「文化・人種・宗教・価値観の違いを超えて1つの目標に向かって議論を進める経験がとても刺激的で勉強になった」といった感想も聞かれました。ニューヨークではILO・UNWomen・UNICEFなどの国際機関を表敬訪問し、大会参加に加えて、国際社会の最前線の現場にて最新の情報・課題に直接触れるという貴重な経験を積むこともできました。様々な経験や出会いを通して派遣生たちは1つの国に注がれていた視

高校模擬国連国際大会での結果

優秀賞: 渋谷教育学園幕張高等学校  
派遣校: 浅野高等学校、麻布高等学校、海陽中等教育学校、岐阜県立岐阜高等学校、聖心女子学院高等科、桐蔭学園中等教育学校、灘高等学校

DATA

開催日: 2019年5月10日(金)~11日(土)  
参加者: 約13か国、約1500名  
開催場所: Grand Hyatt NY, United Nations General Assembly

点を広げ、グローバル人材としての頼もしい第一歩を歩み始めました。

ACCU 奈良事務所

## ワークショップをはじめた頃

ACCU奈良事務所 前所長 西村 康



ACCU奈良事務所(ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所)が奈良に開所したのは1999年の8月です。2000年になってから研修を中心にすえた人材養成と、文化遺産保護に関わる情報収集と公開を、事業の中心として開始しました。手探りの状態で始めた集団研修、個人研修ともに形が固まり、毎年順調に実施できるようになった頃の2007年から、海外へ出かけていき研修をおこなう「ワークショップ」を始めることになりました。外国で

開催するというのは何もかもがまったく新しい経験でした。まず、事前の準備が大変です。相手国の要望する研修のテーマを絞り込むまでの意見交換と決定。それに必要な機材の準備、研修会場の設営、宿泊施設の手配、通訳の手配など。実習に用いる遺物や建物の選定というような準備もあります。外国でおこなう研修には、①現地の文化財を扱う、②現地の言葉で研

修する、③一度に多数の受講者を対象にできる、というメリットがあります。英語を用いて奈良でおこなう研修とは大きな差があり、伝達できる情報の量と質に大きな違いがあることを実感したものでした。

2013年10月25日、スリランカ・キャンディ(奈良での研修に参加した人たちが、ワークショップの現場を訪ねてくれた)



# 国際問題について熱いディスカッション



## 全国各地の高校模擬国連



東海地区高校模擬国連大会岐阜海陽会議

近年、関東と関西に集中する傾向にあった高校模擬国連活動ですが、今年2月に岐阜県立岐阜高等学校にて、4府県12校から83名の生徒が参加し、地雷問題を議題に第2回東海地区高校模擬国連大会岐阜海陽会議が開催されました。続いて山形県立山形東高等学校にて、山形県高校模擬国連研修会が初めて実施され、ジェンダー平等を議題に6校40名の生徒が活躍しました。いずれも初心者中心

ということもあって、議長の運営には随所に工夫が凝らされていました。東海地区では公式スピーチの間に、全員が模擬国連を実感できるよう、37か国の大使全員に30秒の発言機会が与えられました。また山形では、議長による模擬国連の進め方の説明が適宜入るとともに、公式スピーチは大使2名がともに発言できるように、英語と日本語併用で実施されていました。アンモデ（非公式討議）では、グループ形成したものの、ファシリテーター役が不在で話がまとまらないということもあったり、大使としての立場を忘れ、個人の意見に流されたり、主要国の説得に対応できずに従属してしまったりという場面も垣間見られましたが、全員が議論に参加できたのは良かったと思います。公立高校ならではの継続的組織的に取り組むことの難しさがある中、教職

員の方々が努力されている姿や、大使の組み合わせとして、押しの強さを期待して運動部員を巻き込むという発想も面白く、冬真っ盛りの開催でしたが、高校生と教職員の熱い思いが心を温めてくれました。

### DATA

**岐阜海陽会議**  
開催日：2019年2月9日(土)～10日(日)  
参加者：83名  
開催場所：岐阜

**山形研修会**  
開催日：2019年2月11日(月)  
参加者：40名  
開催場所：山形



山形県高校模擬国連研修会

## 未来へつなげ！ユネスコスクール Good Practice 2

### 世界規模での社会参画

立命館守山高等学校

本校は、ワン・ワールド・フェスティバル for Youth (以下、ワンフェスユース) の高校生実行委員として、その立ち上げ期から選出され、他校の高校生とともに企画の立案と運営を行っています。ワンフェスユースとは、大阪で開催される高校生のための国際交流・国際協力EXPOです。2017年には、スマートフォンと私たちの生活を考えるワークショップを、2018年には環境問題と企業の取り組みをテーマとしたワークショップを実施しました。こうしたプログラム企画以外に、全体テーマ

の決定や広報、イベント後の振り返りなども行います。学校での学びを内にとどめるのではなく、国際協力的分野に携わる様々なセクターと積極的につながり、広く発信し、共有することで、世界規模での社会参画を高校生に呼びかけています。

また、ワンフェスユースでは学習成果や研究発表の場も広く設けられています。ポスターセッションや活動報告会、ブース出展などにも多くの生徒が参加し、同世代の参加者たちと互いに刺激し合いながら交流を深めています。



ワンフェスユースの様子

## ACCU 活動メモ

2019年2月～5月 ①実施期間 ②主催、共催団体名 ③開催場所 ④参加国、参加者数

### サステナブルスクール指定最終報告会

①2月20日(水) ②福山市立福山中・高等学校 ③広島県福山市

### 国際教育交流事業 エキスパートミーティング 報告会・ワークショップ

詳細…P6  
①2月22日(金)～23日(土) ②ACCU ③東京 ④韓国・中国・タイ・インド・日本 参加者延べ52名 (22日：18名、23日：34名)

### 総合的な学習の時間「グローバル課題研究」に関する生徒向け研修会

①3月13日(水) ②金沢大学附属高等学校 ③石川県金沢市 ④約120名

### 「地域に根差したESD推進パイロットプロジェクト」中間会合

①4月1日(月)～3日(水) ②ユネスコ・バンコク事務所 ③タイ ④26名

### 高校模擬国連国際大会 インフォメーション・セッション

①4月14日(日) ③ACCU、グローバルクラスルーム日本委員会(JCGC) ③JICA地球ひろば ④高校生16名、見学者約50名

### 「ハッピースクールプロジェクト」国内ワークショップ

①4月20日(土)～21日(日) ②ユネスコ・バンコク事務所、MGIEP、ACCU ③福山市立大学 ④19名

### 高校模擬国連国際大会派遣

①5月7日(火)～13日(月) ②ACCU、JCGC ③ニューヨーク国連会議場他(米国) ④派遣生16名、引率者13名

### 奈良 世界遺産教室

奈良県内の高校生に、文化遺産保護の重要性を楽しく学んでもらう出前授業。  
①5月中旬(予定) ②奈良 ③奈良市立一条高等学校1年生 ④40名程度

### ACCU INFORMATION

#### 元横綱の日馬富士さんがACCUに来られました!

「日馬富士」と聞けば、日本中誰もが知っている元名横綱ですが、実は故郷モンゴルの首都ウランバートルに小中高一貫の「新モンゴル日馬富士学校」を設立された教育者でもあります。モンゴルはACCUにとっても図書開発活動や識字教育を通してご縁のある国です。

今回の来訪は教育者の目線で「礼節や他者への気配りなど、人間形成の場でもある日本の教育をモンゴルにも取り入れたい」という思いでの繋がりで。

お互いの文化を尊重し、相互に受け入れて、国単位ではなく同じ地球人としての幸せな生活のため、このような繋がりを大切にしていきたい! そんな熱い思いを共有した時間でした。



日本の教育を  
モンゴルに

### ACCU INFORMATION

#### 本のフェスに参加しました!

去る3月23日(土)～24(日)、第4回「本のフェス」が開催され、ACCUはメイン会場の1つであるDNP市谷左内町ビルで出展しました。

昨年に続き、今年もかつての図書出版事業で制作した絵本などを販売しました。出展ブースでは、ACCUの活動に興味を持ってくださるお客様、「この本、子供の時大好きだった!嬉しい」と手に取ってくださるお客様、親子で「Can you find me?」のなぞ解きを楽しむお客様たちとの出会いがありました。

「本のフェス」を通して、普段オフィスでは直接聞く機会がないACCU活動への生の声や笑顔と接することができたのは職員にとって大きな喜び、そして励みとなりました。

### ACCU INFORMATION

#### 1月からの新メンバー紹介!

個性あふれるACCUの一員になることができ嬉しく思います。まずは職員として一人前になれるように、アンテナを高く立ててたくさんのご意見を吸収しつつ、日々の仕事に取り組みたいと思います。  
(国際教育交流部 天満)

「知る」ことの大切さを日々感じております。広報担当として、ACCUの活動を広く、深くご紹介できるように尽力します。  
(総務部 天野)

